



特別養護老人ホームグランツァ 管理栄養士が届ける『食の楽しみ』



食事の感想を聞くひと時。
食にまつわる思い出話には枚挙にいとまがない。

人にとって食事は単なる栄養補給ではなく、育った地域の味、家族との思い出、季節の移ろいなど、それぞれに歩んできた人生と共にあります。そこで名張育成会では早くから「食は人生そのもの」という考えを大切にして、各所に栄養士を配置してきました。

特別養護老人ホームグランツァでももちろんその意思を受け継ぎ、利用者一人ひとりに沁みだした「心の味」を尊重して、食の楽しみを感じてもらえるよう取り組んでいます。



この時の「甘味カフェ」は、すっきりとした甘さが特徴の桃「ちよひめ」をふんだんに使用したデザートを提供。

食事づくりで大切にしているのは、栄養バランスや味覚だけではなく、栄養士がわく彩りを考え、ボリュームに合わせた盛り付けを調理スタッフとともに工夫しています。



さらに、月に一度旬の食材や季節のフルーツ、デザートを楽しむ「甘味カフェ」という食を中心としたイベントを開催しています。場所を1階の地域交流室に移し、他のフロア居住者や事務職員などいつもとは違う方たちが集まり、カラオケなども楽しむコーヒブレイクです。歌ったりおしゃべりしたりすることは嚥下機能や脳への刺激にもつながり、日々の暮らしに変化と潤いをもたらしています。

また、食事は多職種の連携によっても支えられています。調理スタッフはもちろん、日々の介助を行うヘルパーや看護師などと密に情報共有し、食事の状況や摂取量、咀嚼の具合、また体重、体調の変化を丁寧に把握します。また食事時には各フロアを巡回するミールラウンドを実施し、食事の様子を観察。こうした積み重ねが、利用者の健康を守り、食を楽しむ土台となっています。

名張育成会には現在6名の管理栄養士が在籍し、月に一度の栄養士ミーティングで情報交換や相談を行っています。専門職どうしが横連携して積極的に意見を交わし、気軽に相談しあえるのも法人組織の強みです。「食は人生そのもの」という考えを大切にしてきた名張育成会のDNAを大切にしながら、これからも利用者皆さんに「おいしい」「たのしい」と感じていただける食事を届け続けてまいります。

(ウラ面に続く)



利用者の皆さんに楽しんでもらえることが何よりやがたい。

名張育成会の活動、ひとつずつ!

各施設の様子をお伝えする「MiRAiレポートブログ」から
選り抜きの話題をご紹介します。

はてなブログ MiRAiレポート 検索

伊賀圏域障がい者就業・生活支援センター ジョブサポートハオ

在職者交流会～BBQ・ITOゲームでコミュニケーション～

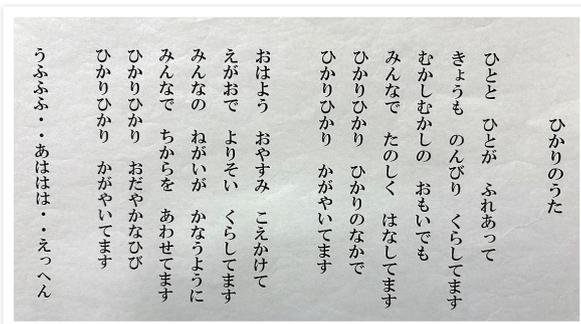


ジョブサポートハオは、障害者の雇用促進と安定を目的とする支援センターです。昨年某日に在職者学習会として、アンケートで希望の多かったBBQを開催し、21名が参加。アイスブレイクには「ITOゲーム」を取り入れ、動物に例えた数字を使って協力し合いながら、コミュニケーション力を高めました。ゲーム

後はお楽しみのBBQタイム!室内グリルで焼いたお肉を囲み、焼く人・食べる人・見守る人、それぞれが役割を楽しみながら交流を深めました。氷のアイスでエネルギーもチャージ完了!明日からのお仕事もがんばれそうです。ハオは、働く皆さんをいつも応援しています。

高齢者グループホーム〈ひかり〉

うふふ…あはは…えっへん



高齢者グループホームひかりで、ある日I様が隣の利用者様に「寒い?」と声をかけ、そっと膝掛けをかけてあげる場面を見かけて、その優しさに心がぽつと温くなりました。

ひかりでは、I様に限らず、利用者様同士が自然に声を掛け合い、助け合う姿が日々見られます。職員が作詞・作曲した『ひかりのうた』の歌詞のように、皆さんが寄り添い、力を合わせて暮らしておられる様子に、ひかりの良さだなぁと、温もりを改めて感じたひとときでした。

通所活動支援〈ききょうの家〉

新成人のお祝い



ききょうの家では、知的障害や身体障害のある利用者さんが日々にごやかに活動されています。今年度は2名の方が新成人を迎え、ささやかながら「新成人の会」を開催し、みんなでお祝いしました。ご本人からお母様への花束贈呈では「育ててくれてありがとう」と感謝の言葉があり、感動のひとときに。記念品の贈呈や記念撮影も行い、笑顔あふれる会となりました。

18歳で通所を始めたお二人もすっかり大人の表情に。ききょうの家にもすっかり慣れて、毎日元気に楽しく過ごしていただいています。これからもお二人が安心安全に成長出来るようずっと見守っていきいたいな!(^^)!

今月紹介した記事はすべて、「MiRAiレポートブログ」に詳しく掲載しています。ぜひご覧ください。



ブログはコチラ ▲

(表面より)

食事を楽しんでもらうために…

特別養護老人ホームグランツアの食事を提供しているキッチン。同じメニューでも利用者一人ひとりに細かく調整し、毎回60食を提供しています。

高齢の方にとって食事は一日の楽しみのひとつ。だからこそ、安心して召し上がっていただけるよう、衛生管理を丁寧に行い、食材の扱いや加熱にも細心の注意を払っています。

また、嚥下状態や好みに合わせてやわらかさや形を変えたり、アレルギーや禁食の確認を重ねたりと、細やかな配慮が欠かせません。彩りや香りを大切に盛り付けも、食欲をそっと支える工夫のひとつ。管理栄養士と調理スタッフがワンチームとなって、その方に合った「食の楽しみ」を届けています。



カボチャ煮の硬さや大きさ、またペーストの状態を調整し、細かく確認しながら盛り付けています。

取材:広報委員会